

月影



第81号

令和七年十月一日発行

浄土宗西山禅林寺派

常林院



見えるものに
とらわれ
見えないものに
支えられている



太陽があるから
月が輝く

夜空があるから
星がきらめく

咲く縁があるから
花が咲く

みんな何かに
支えられている

仏事と

作法

仏壇 (二)



お仏壇にお参りするとき、お花を
供え、お線香、ろうそくを灯してお
参ります。

お線香は線香立てに。ろうそくは
燭台（しょくだい）に。花は花立て
に供えます。この線香立て、燭台、
花立てにも並べ方があります。

五具足

五具足（ごぐそく）という置き方
があります。

真ん中に線香立て。その両側に
燭台、そして一番両端に花立て。
これを五具足といいます。



五具足

三具足
もう一つの並べ方に三具足（みつぐそく）があります。

真ん中に線香立て。その右に燭
台。線香立ての左に花立て。これ

を三具足といいます。



三具足

ろうそくを灯すと、仏壇の上の
方に煤（すす）が溜（た）まることがあ
ります。もし気になるようでした
ら、三具足（五具足）を仏壇の中
ではなく、外側（仏壇の引き出し
を使用）に置くのも良いでしょう。

（つづく）



さびしいとき

金子みすゞ

私がさびしいときに、
よその人は知らないの。

私がさびしいときに、
お友だちは笑うの。

私がさびしいときに、
お母さんはやさしいの。

私がさびしいときに、
仏さまはさびしいの。

誰かが悲しんでいる姿を見たとき、同じように悲しくなることがあります。これを「同悲」といいます。

同悲とは、悲しみや苦しみを抱えている人によりそい、共に悲しみ、共に苦しみ、共に涙する心のことを言います。

しかし、凡夫ぼんぷの私たちは、悲しんでいる人との関係性が離れれば離れるほど他人事になり、同悲の心も少しずつ薄れていきます。

しかし、仏さまは私たち凡夫とは違い、すべての人を見守り、よりそい、一緒に悲しまれる存在です。

仏さまのお顔を見ていると、さつきまでイライラしていた心が落ち着いたり、悲しみに暮れていた

気持ち癒いされることがあります。

仏さまが私たちに話しかけられることはありませんが、静かに見守っておられる眼差しを見るだけで安心します。

金子みすゞの詩は、いのちを見る深いまなざしと、やさしいころに満ちあふれていて、今まで気がつかなかった大切なことに気づかされます。

○金子みすゞ

一九〇三年、山口県長門市に生まれる。すぐれた作品を発表し続けるが二十六歳という若さで世を去る。



仏教歳時記

ずずだまの穂にうすうすとほき雲

長谷川素逝

数珠玉^{じゆずたま}は「ずずこ」とも言い、水辺や畑地などに自生する多年草です。高さは一メートル余り。

初秋に実がなります。緑、黒に変色し、熟れて灰白色の光沢のある実となります。

これに糸を通し、数珠を作ったことからこの名前になりました。

また、お手玉の中に入れ、遊び道具としても利用されます。



雑記抄 〳耳の記憶〵

三つの供養があります。一つは「法の供養」。線香や蠟燭^{ろうそく}を灯す。二つは「物の供養」。好きだった物などを供える。三つは「心の供養」。その人のことを想い^{おも}い^{しの}惚^ぼぶ▼亡き人との思い出をたどると、生前の元氣だった姿や顔が心に浮かびます。その時、その人が言った言葉や、話した会話を、その人の声とともに思い出すことがあります▼この「耳の記憶」は、「目の記憶」よりも、鮮明に心によみがえることがあります▼以前、ある檀家さんの枕経に参ったときの

こと。亡くなった方の前に座ると、その方の声が心の中で聴こえたことがあります。「おっさん、お忙しいところありがとうございます。こんなことになってしまいました。私の本意ではないんですが…。おっさん、よろしく願いします…。」と▼その声の正体は、その方の本当の声ではなく、きっと、その方がおっしゃるだろう言葉と、私の耳の記憶で想像したものなのでしよう▼たとえ、そうだとしても、その声が聴こえたときは耳を傾けます。その方がおっしゃった言葉として。